



発行所 紀伊

診察室の午後

白浜はまゆう病院
泌尿器科部長 川嶋 秀紀

白浜町の白浜はまゆう病院、川嶋秀紀泌尿器科部長の随筆を隔週で掲載します。

私は23年間、都会の大学医学部で臨床教員として勤務してきた。昨年夏から現在の病院にお世話になってる。実家は和歌山市にあるが、祖父が有田市から出て来るまで500年以上、ご先祖は有田で生活をしてきたらしい。親戚の話では

川嶋の家と〇〇家と△△家という三つの家の間で嫁や婿のやりとりをしていたそうである。随分と血が濃いことになる。

正直言って和歌山県に帰ってほっとしている。大学での仕事や人間関係から解放され、ありがたい限りだ。そんな自由な気持ちで大阪の地下鉄に乗っていたら、あらためて人が多いことに驚かされた。都会では各地から人が集まって来るか

<1> 組織適合抗原

ら、いろいろな遺伝子を持つている人がいるに違いない。若い人は都会に集まり配偶者を見つけていくのだ

る。私のご先祖とは大違いだなどどぼんやり考えた。

ヒトには組織適合抗原(HLA)という免疫のタ

イプがある。血液型がA、B、AB、O型と違つよつに、HLAも人によって異なる。HLAのクラス1のAの中には、A*24、02、26、33、31、11といったタイプがある。ちなみに私はA*33である。日本人ではA*24が多く、どのタイプ

が多いかは人種差・民族差がある。

あるHLAタイプを持つた人はある感染症に対して抵抗力があり、別のHLAタイプの人は別の風土病(感染症)に対して治りやすい。これはヒトが種全体として生き延びるために有利なメカニズムである。

ヒトは別のHLAタイプの異性を選ばらしい。その方が自分のHLAに別のHLAタイプが加えられた子孫を残すことができ、感染症の脅威から少しでも守られやすい。どっやって異なるHLAの異性を嗅ぎ分けるか。

かわしま・ひでのり 1957年生まれ。1984年に大阪市立大学医学部を卒業し、91年に同大学助手。93年に米国ペイラー医科大



卒業し、91年に同大学助手。93年に米国ペイラー医科大に入学。94年に米国テキサス大学医学部に留学。2002年大阪市立大学講師、07年同大学准教授、14年白浜はまゆう病院泌尿器科部長。日本泌尿器科学会専門医・指導医